

伝統的民家の快適性

「伝統的民家の風土とのかかわり」

953153 岡 和宏
指導教員 成田 健一

【目的】 伝統的民家に住んでいた人々は快適性を
得るためにどのような工夫をしていたのか、日本各地
の伝統的民家の違い、そして高断熱・高気密住宅と比
較し、その問題点などについて考察する。

【内容】 古来人々は、最少の経費で最大の効果を
ねらった家造りをしてきた。今日のように工業化がな
されていなかった時代、その土地の風土の中で育った
身近にある自然界のものが、材料として用いられその
風土に従い調和を図った民家が造られていた。これが、
最も住みやすく最も経済的な家造りだったのである。
だから、周囲の環境や生活習慣の変化に伴い民家の姿、
材料、住まい方などにも違いが見られ形式が存在した
のである。

【住まう文化】

伝統的民家に住んでいた人々は、風土にあった快適
な生活を送るために住まうための工夫をしていた。そ
こに住む人々が快適性を向上させようとし、知恵を絞
り努力していたからである。そこには、住まう文化が
あったのだ。しかし現在その文化は消えてしまったの
ではないか？機械による空調などに頼ることにより
人々は知恵を絞ることを止めてしまった。

【伝統的民家と高断熱・高気密住宅】

伝統的民家に比べ今日の住宅にはほとんど地域によ
る特色は見られない。それは、今日の住宅が自然をシ
ャットアウトした閉鎖的な住宅となったからではない
のだろうか。日本の伝統的民家は、日本の蒸し暑い夏
を克服するために最も効果的である風を取り込むため
の工夫をして快適性を得ようとしてきたのに対し、
『高断熱・高気密住宅』は熱損失につながる隙間風を、
出来るだけ少なくして機械的な空調設備によって快適
性を得ようという全く逆の考え方である。しかし今日、
環境の危機などが叫ばれている中でエネルギーに過度
に依存する方法は、物理的にも難しくなっていき、伝
統的民家に見られたような建築的手法を改めて見直し
ていくことが必要になってくると思う。常に日常生活
に変化を与え活性化をしようとする自然を受け入れな

おかつ快適性を得ようとした伝統的民家。時代の流れ
とともに注目されてきた『高断熱・高気密住宅』は、
快適性という面で優れた住宅ではあるのだろうが、住
む側の認識不足により、いくつかの問題が生じてきて
いる。それらを解決するためには住まう文化を取戻す
と共に、伝統的民家に見られた様々な工夫も見直し、
どちらか一方に依存することなく、バランスのとれた
家造りを考えることが必要になってくると思う。

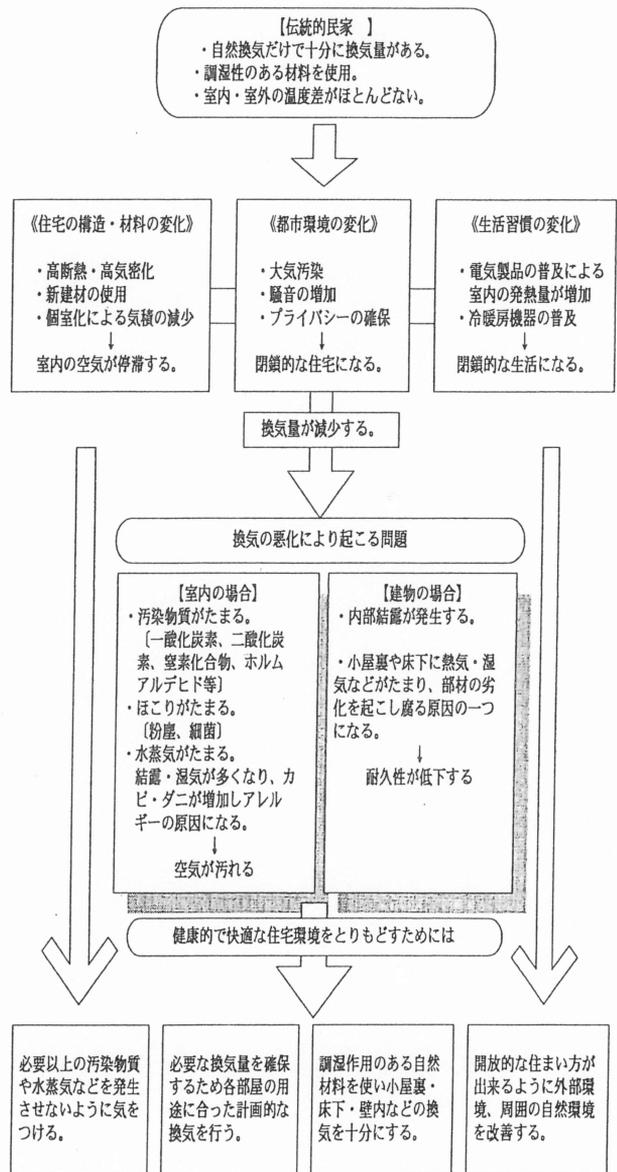


図1 快適な住環境を得るためのフローチャート